



自生的近代性の聖(聖)・俗(俗)変化機制としてのリミナリティ

Liminality as Mechanism of Sacred-Secular Transformation

目次および研究背景

研究内容

- 1 リミナリティ概念と発展過程
- 2 近代性とリミナリティの相関関係
- 3 東学思想と大巡思想の特徴
- 4 自生的近代性とリミナリティの交差点
- 5 現代的適用と示唆点

研究背景

問題提起および研究目的

東西洋の近代性概念の差異と統合可能性の模索。リミナリティ概念を通じた東学思想と大巡思想の自生的近代性分析。

東学大巡思想概要

韓国の代表的自生思想として、西欧近代性と異なる方式で近代的变化を追求した思想体系。聖(聖)と俗(俗)の境界を往来するリミナリティ的特性。

研究の必要性

現代社会の不確実性と両面性の時代における代案的近代性モデルとしての可能性の探索。リミナリティを通じた東西洋思想の新たな統合可能性の提示。

リミナリティ概念の定義

リミナリティ (Liminality) とは境界、敷居を意味するラテン語「Limen」に由来する概念で、人類学者ファン・ヘネップ (Arnold van Gennep) が通過儀礼研究において初めて提示した用語である。

主な特徴

- 境界性(境界性)と転移性: 以前の状態と以後の状態の間の曖昧かつ不確定な中間状態
- 創発性と可能性: 既存秩序から脱し、新たな可能性が開かれる創造的空間
- 両面性(両價性): 危機と機会、死と再生、混沌と秩序が共存する両面性

リミナリティの位置



リミナリティは単なる通過儀礼理論から出発し、社会文化歴史・宗教など幅広い変化を説明する理論へと拡張された。

通過儀礼とリミナリティの3段階

ファン・ヘネップ(Arnold van Gennep)は、世界の通過儀礼が共通して3段階構造を持つと分析した。このうち第二段階である転移過程において「リミナリティ」が核心的役割を果たす。

通過儀礼の構成段階

すべての通過儀礼は次の三段階を経る:

- ◆ 分離儀礼(分離儀禮, rite of separation): 既存世界との断絶
- ◆ **転移/過渡儀礼(轉移/過渡, rite of transition): リミナリティ段階**
- ◆ 統合儀礼(統合儀禮, rite of incorporation): 新たなアイデンティティの獲得と復帰

1 分離儀礼(Separation)

既存の社会的地位・状態・位置から分離される段階。日常と断絶し、以前の地位と役割が解体される。



2 転移儀礼 / リミナリティ (Liminality)

どちらでもない「境界的」状態。既存秩序から脱し、曖昧かつ不確定な状態に置かれる。

i 特徴: 曖昧模糊、創発性、両価性(両價性)、平等、匿名性、脱構造化



3 統合儀礼(Incorporation)

新たなアイデンティティと地位を付与され、社会へ再統合される段階。以前とは異なる新たな社会的存在として生まれ変わる。

リミナリティ理論の発展過程

1

ファン・ヘネップの通過儀礼理論

アルノルド・ファン・ヘネップ(Arnold van Gennep)

主要概念: 通過儀礼(rite of passage)におけるリミナリティの発見、分離-転移-統合の3段階構造化
~20世紀初

意義: 人類学において初めて儀礼の共通属性である「通過」を発見したが、デュルケームの批判により一時的に縮小

2

ヴィクター・ターナーの再発見と拡張 ヴィクター・ターナー(Victor Turner) 1960~80年代

主要概念: リミナリティとコミュニタス、社会劇(Social Drama)理論、構造-反構造-構造の変化モデル

意義: 儀礼論を越え、社会文化・宗教変動の一般原理へと拡張、公演学(Performance Studies)との連携

3

現代社会と近代性分析への拡張

エディス・ターナー、ジグムント・バウマン、シュムエル・アイゼンシュタットなど

1990年代~現在
主要概念: 日常と突難のコミュニタス、液体近代(Liquid Modernity)、多元的近代性(Multiple Modernities)

ヴィクター・ターナーの社会劇理論

社会劇(Social Drama)とは、ヴィクター・ターナーがファン・ヘネップの通過儀礼概念を社会・文化・宗教諸領域へ拡張して提示した概念であり、社会を背景とする「演劇」のようだと見なした。

社会劇の特徴

- 普遍性: 「全世界的に起こる普遍的な社会文化現象」の変化を説明
- 弁証法的過程構造(studue)→反構造(anti-studue)→構造(studue)の循環的变化
- 心理的機能苦痛に満ちた人生の転換過程を円滑に通過できるよう補助

社会劇の四段階

1. 違反(Breach)

既存の社会規範や規則の違反



2. 危機(Crisis)

葛藤の拡散と対立の深化



3. 是正/治癒(Redressive Action)

問題解決のための公式・非公式なメカニズムの作動



4. 再統合/分裂(Reintegration/Schism)

社会の再統合または新たな分裂の始まり

構造と反構造

構造(Structure): 既存社会の階層的・分化された組織形態

反構造(Anti-structure): 平等・連帯感が強調されるコミュニティ形態。既存秩序が一時的に無化される状態

コミュニティと反構造の概念

コミュニタ

ス
ヴィクトア・ターナーが提示した人間の特別な相互関係性を示す概念で、リミナリティ状態において形成される共同体的経験である。

主な特徴

- ✓ 平等性:既存の社会的地位・階級・身分がすべて消滅する平等な関係
- ✓ 連帯感:強い共同体意識と所属感の形成
- ✓ 即興性:構造化されたパターンではなく即時的・直接的な関係の形成

「ンデンプ族の事例:成人式の過程で子どもたちは見知らぬ環境に独りで放り込まれた状況のなか生存するため、強い連帯感と協同心を形成しコミュニティを経験する」

反構造

既存の社会構造秩序に対比される概念であり、構造化された社会の枠組みを一時的に逸脱ないし逆転させる状態である。

主な特徴

- ✓ 匿名性:儀礼参加者は同一の服装と無所有状態で表象され、個人のアイデンティティが弱体化される
- ✓ 役割逆転:社会的地位・権威が逆転し、弱者が一時的に権威を持つ
- ✓ 社会的構造の中止:既存の社会規範秩序が一時的に中断される現象

関係図:構造(structure) → 反構造(anti-structure) → 新たな構造(new structure)

*ターナーの社会劇理論では危機と変化の核心的メカニズムとして作用

「反構造をなすコミュニティとリミナリティは密接に関連しつつも区分される。リミナリティは存在様相と条件に関するものであり、コミュニティはそうした状態にお

液体近代と多重近代性

ジグムント・バウマンの液体近代論

(Liquid Modernity, 液體近代)

近代性を永続的リミニリティによる極端的流動的変化状態として解釈

- ◆ 封建的価値克服後の代替的価値の樹立に失敗
- ◆ 液体のように不確定的で持続的に変化する状態
- ◆ 近代性の特徴である両面性(両價性, ambiguity)の強調
- ◆ 現代人の意気消沈と不確定性の説明

シュムエル・アイゼンシュタットの多重近代性

(Multiple Modernities, 多重近代性)

聖(聖)と俗(俗)概念の再定義を通じた統一的近代性の提示

- ◆ 単一の西歐的近代性モデルの拒否
- ◆ 多様な文化的文脈で出現する複数の近代性の認定
- ◆ 聖と俗の境界の転換にあるリミニリティを強調
- ◆ 文化的アイデンティティを維持しながら近代化の可能性を提示

リミニリティとの関連性

弁証法を超えた解釈

ヘーゲルの弁証法が提示できなかった現代社会の問題点と不確実性をリミニリティによって説明



両面性と曖昧性

子どもを洗った水を捨てながら子どもまで捨てた結果 – 既存価値転覆の副作用



脱近代性の分析

リミニリティが永続化された現代社会の不安定性と創発性の共存の説明

東西近代性の比較

	東洋(東洋)	西洋(西洋)
思维方式	相関的思惟、陰陽論	弁証法的思惟、二分法
近代性の発生	帝国主義支配と危機の中での自生的発展	中世の危機(モンゴル侵入、ペスト)と他文明との交流
展開方向	宇宙(天)から個人(人)への内面化	個人から宇宙へ拡張
リミナリティ解釈	包越(包越)、加一倍法(加一倍法)、化(化)	通過儀礼、社会劇、コミュニケーション
韓国的特徴	接化(接化)の特性 – 異質な要素の統合と超越	

「西洋と東洋はいずれも天観地観人間観を通じてリミナリティを構築し近代性を実現するが、自己から宇宙へと拡大していく西洋と、宇宙から自己へと拡大していく東洋とは、近代性のリミナリティ形態が異なる。」

リミナリティ適用方式

西洋のリミナリティ

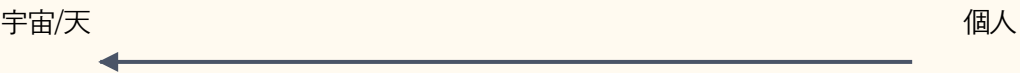
個人合理性から社会へと拡張される方式



- 通過儀礼を通じた個人の社会編入 弁証法
- 的发展(正-反-合)を通じた進歩 液体近代(バウマン):永久的リミナリティ状態

東洋(韓国)のリミナリティ

宇宙的原理が個人へ内面化される方式



- 陰陽五行の循環的思惟体系
- 東学の侍天主(侍天主) – 天を我が内に侍る 大
- 巡思想の包越(包越) – 包含しつつ超越する

自生的近代性の特徴

東アジア三国のうち韓国の東学思想と大巡思想は、自生的な三界観(天地人)を通じてリミナリティ的近代性を具現し、接化(接化)の性格により既存要素と新たな要素を統合する

自生的近代性と東学/大巡思想

東学思想とリミナリティ

イ

● 侍天主(侍天主)思想

天を侍るという概念により、人間内面の神性と世俗の境界を往来するリミナリティ的特性を内包

● 生命思想と相関的思惟

金芝河の研究東学思想に見出される生命中心思想は、西洋弁証法と異なる生成的思惟方法として自生的近代性の特徴

● 開闢(開闢)思想

既存秩序と新たな秩序の間の境界に位置するリミナルな轉換期的思想として、近代性の変化機制の役割を果たす

大巡思想とリミナリティ

イ

● 解冤相生(解冤相生)

怨恨を解いて相生する概念であり、李英蘭の研究によれば対立的関係から第三の要素を創出するリミナリティ特性

自生的近代性の特徴

東学思想と大巡思想は西欧の近代性と異なり、相関的思惟と主体性の均衡を通じて韓国的リミナリティモデルを構成

- 聖(聖)と俗(俗)の再配置:宗教的聖性と日常の世俗性を分離せず統合的に接近
- 加一倍法(加一倍法)と接化(接化):既存の基盤の上に新たな要素を加える包越的变化方式でリミナリティを具現
- 内在的超越金益斗の研究において提示された「白い陰の美学」のように、対立を越えた第三の空間を創出

西欧近代性との相違点

西欧近代性 個人→宇宙へ拡張

東学/大巡思想 宇宙→個人へ内面化

变化方式 対立的弁証法vs.相関的リミナリティ

リミナリティの現代的適用

現代社会のリミナリティ適用領域



日常と文化領域

- 祭り、舞台芸術、大衆文化における境界の解消
- ロマンティック・ラブのリミナリティ的特性と現代的解釈
- 労働と余暇の境界の変化と意味の転換



社会政治的領域

- 光州民主化運動など市民抵抗運動のリミナリティ
- デジタル空間におけるアイデンティティと現実の境界の曖昧化
- 社会変動期のコミュニティの形成と新たな秩序の創生

リミナリティの現代的意味

災害と危機的状況における役割

エディス・ターナーは災害状況においてコミュニティが重要な対処メカニズムとして作用することを強調した。COVID-19 パンデミック状況においても社会言論や制度的対応だけでは解決困難な際、宗教的対処とともに自発的共同体形成が危機克服に寄与した。

“「**危機状況**はリミナリティ様相を通じて、**創発的共同体形成の契機**となる」

脱近代性との連結性

リミナリティは弁証法が説明できない現代社会の両面性と不確実性を説明する代案理論であり、特に「永久的リミナリティ」として特徴づけられる液体近代の状況において、東学思想と大巡思想の自生的リミナリティ的接近が代案的近代性モデルとして提示され得る。

現代的意義

リミナリティは単なる通過儀礼理論を越え、現代社会の複雑な変化と混沌のなかで新たな創発の原理を理解する理論的枠組みへと拡張された。

結論および示唆点

研究結論

リミナリティは近代性と脱近代性を連結する統合的概念枠組みとしての価値を持つ。

✓ 近代性解釈の拡張

リミナリティは弁証法の限界を越え、近代性の不確定性と両面性を効果的に説明する。

✓ 自生的近代性の再発見

東学思想と大巡思想は西欧的近代性とは異なる経路の自生的近代性を示す重要な事例である。

✓ リミナリティの普遍性

聖(聖)と俗(俗)の境界変化を通じたリミナリティは、東西洋共通の社会変動機制として作用する。

研究の示唆点

「リミナリティは不確定性の時代に新たな創発性と可能性を開く概念的道具となる。」

💡 理論的示唆

- ◆ 東西洋近代性比較のための新たな理論的枠組みの
- ◆ 提供 弁証法を越える代案的思维方式としての価値
- ◆ 韓国新宗教思想の学問的再評価の可能性

🌱 実践的示唆

- ◆ 現代社会の不確定性と危機克服のための洞察コミュ
- ◆ ニタス的連帯意識を通じた社会問題解決の可能性文
- ◆ 化的アイデンティティと普遍的価値の調和的統合方
案